

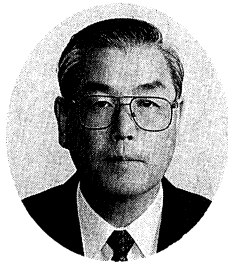
日々の想



ずいそう

皐月雑感

石田 洵



木々は芽吹き新緑の眩しい子供の
日、大型連休とはいえたった一日の
休日。「あづま総合運動公園」に足
を運んだ。思えば「五三総体」の開
会式会場に予定されたこの地が、「ふ
くしま国体」へと受け継がれ、永い
歳月を経てその規模も大きく完成し
ようとしている。スポーツ関係者と
して感無量であった。

残雪輝く吾妻・安達太良の秀麗を

間近に仰いで、目指すは太鼓と歓声
が木霊する野球場。前任校で応援団
を引率して以来三年振りの入場であ
った。対戦相手は県下高校野球界の
強豪S高校。スタンドに足を踏みい
れた途端目に飛び込んだ2-0。「勝
つてる！」思わず心が弾んだ。三塁
側から経験豊富な応援団のリードす
る大きな声が我が軍を威圧してい
た。遠慮がちで恥ずかしそうに応援
していた一塁側も7-2とリードす
るにつれ見事に統制の取れた自信あ
ふれた応援に変わっていた。選手達
の目も生きています。これが授業中寝
ている生徒と同じ人間かと思うほど
輝いていた。5回一挙5点を取られ
同点。するとまた生徒の目が不安で
自信のないいつもの目に戻ってしま
った。しかし応援側は益々両サイド
盛り上がりつつあった。結果は8-7
で逃げ切り、歓喜する選手や関係者
で沸き返った。スポーツで勝つこと
は選手に夢・希望・感動・活力を与

えてくれる。そして同一化した応援
者にも同様にそれらを感じさせてく
れる。その日を経験した人々の心の
内に熱い思いを持たらしたことに信
じた。だが、時としてスポーツは
残酷でもある。体や心を蝕み、挫折
や絶望さえも感じさせる。スポーツ
は「諸刃の剣」である。

「ふくしま国体」が間近に迫り関係
者として種々不安な日々を送ってい
る。「国民へのスポーツの普及」を目
指して開催された国体も半世紀を経
る過程で我が国最大のスポーツイベ
ントに変化し、県の力を問われるほ
ど世論の関心事となってきた。「優勝
すること」が開催県に課せられた義
務になり、それぞれの種目でチーム
づくりや選手育成に努力している。
選ばれた者、選ばれなかった者、勝
った者、負けた者それぞれの体験に
は一般の人々が想像できないドラマ
がある。特に高校生においてはな
おさらである。選ばれなかった者、
負けた者に更に夢と希望を持たせら
れるような大人の配慮が必ず必要に
なる。四〇数年振りに福島県で開催
される国体を通して子供達に何を感
じさせ、何を残せるのか我々関係者
の責務と考える。

すばらしい「あづま総合運動公園」
の体育施設を見ながら、一〇歳の時
信夫ヶ丘陸上競技場で見た国体開会

式を臚げに思い出し、そして8-7
の接戦をものにした我校の健児に新
たな発見をし、二年後の国体に思い
を馳せ五月晴れの公園をあとにし
た。

ここが、全国の国体関係者の感動
の場になり、そして終了後は沢山の
スポーツ愛好者が利用しやすい施設
として愛されることを念じつつ。

(福島県バスケットボール協会事務局長・

県立二本松工業高等学校教諭)

小さな変化

岡村 聡子



空は快晴。Tシャツで外に飛び出
したくなるような、さわやかな五月
のある日曜日のこと。「今日は何か変
わったことをしてみよう！」と思い
立ち、最近乗ることのなかった自転
車でサイクリングに出掛けた。

久しぶりの自転車からの風景は、
いつもと違って、目に飛び込ん